



旧ソ連の多くの人たちが、ヒロシマナガサキの医者が前面にでた！ AEAの報告を聞いて仰天した。「移住などしなくていい」、「小児甲状腺がんは放射能と関係ない」と発表したことで、彼らが救済者どころか、ソ連政府より悪質な何かだと気づいた。特に小児甲状腺がんの子どもが多発して地帯の落胆は大きかった。

当時はまだ世界中のマスコミが権威と対峙できていたので、激しい非難が起こり、世界中でチェルノブイリ救援のボランティア団体が立ち上がった。

世界中がAEAの過小評価に怒り、そして病に倒れる子どもたちの救援に奔走した。原子力産業が追い詰められていく…

子どもたちを助けないなら何しにきた！
汚染地のウラジミール先生

まあまあ、チェルノブイリお母さんたちの不安を納めるために、**長崎の原爆の汚水をすす**って生き延びた私めが、

- ・甲状腺エコー・穿刺
- ・血液検査
- ・WBC検査（内部被ばく）

など検査をしっかりと差し上げますから！**放射能恐怖症**、直しましょうね！



こっちは、不満もってベラルーシの甲状腺の医者**のホロー**せねば！



それでもベラルーシの医師により1992年、ネイチャー誌に小児甲状腺がんは放射能起因という論文が取り上げられ、AEAに一矢報いた。市民も救援活動を世界に訴え、隠されていた低線量ヒバクの害が外部に漏れだした



1991年12月、ソ連は崩壊した。隠されていたソ連邦の犯罪も、汚染地図同様吹き出しはじめてしまった。強権で束ねられていた多民族の不満も噴出したためと言われる。



人々を移住させなでいいというソ連国内の科学者たちは突き上げられたが、それでも小児甲状腺がんは放射能のせいではないと…言い続けたのは責任逃れしたかったのだろう。今でもヨウ素剤を飲ませなかった責任を問う声がある。



「AEA」は「ソ連」の「放射能」